

令和4年3月18日

静岡大成中学校第18回卒業証書授与式 学校長式辞

ようやく春の足音が聞こえて来る季節となりました。

本日、静岡大成中学校、第18回卒業証書授与式が挙行できましたことを大変うれしく思います。ご来賓の皆様方には、ご多用の中ご臨席を賜り、衷心より厚く御礼申し上げます。

保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。入学して間もない、小学校を卒業したばかりのわが子を、朝から夜まで学校に預けることはさぞ不安だったことでしょう。それから今日まで、陰になり陽向になり、お子様の成長を見守って来られ、嬉しかったことや辛かったことなど、さまざまな思いがよみがえっていることとお察しいたします。この3年間、本校の教育方針に、ご理解とご協力を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。

53名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。心よりお祝いをいたします。1年生の頃は、環境が大きく変わる中で、勉強も難しくなり、部活動やスターライトクラスなど、中学校生活に慣れるのに大変だったと思います。

ようやく慣れてきた2年生になるとすぐ、コロナウイルスによって学校が休校となりました。その後もコロナ感染は収まらず、学校行事や部活動の大会が中止になるなど、これまで経験したことのない制約の中で、中学校生活を送ることになってしまいました。しかし皆さんは、先輩を支え、後輩を励ましながら、勉強・部活動・行事などに前向きに取り組みました。皆さんは、この3年間さまざまな経験を通し、大きく成長したと思います。

その中で私は、3年生で沖縄修学旅行に行くことができたことは、本当に良かったと思っています。皆さんは、第二次世界大戦において、日本国内唯一の地上戦で、約20万人が亡くなった沖縄の地に足を踏み入れました。そこで見て、聞いて、感じたことは、戦争を絶対に起こしてはいけないという確信となって、皆さんの心の中に刻み込まれたことでしょう。今、他国で戦争が行われています。毎日悲惨なニュースを聞くたびに胸が痛み怒りがこみ上げます。沖縄で亡くなった約20万人一人ひとりに、かけがえの無い命があったことを皆さんは見てきたはずです。たった一人の命も大切なのに、戦争では、亡くなった人は単なる数字でしか発表されない、これが戦争の恐ろしさです。皆さんには、沖縄での貴重な体験をこれからも大切にしてくれることを願っています。

さて今日は私の経験から、「あきらめないための力」についてお話ししたいと思います。私はランニングを始めて19年になります。これまで85レースに参加し完走しましたが、完走できるかどうかは、「あきらめる」か「あきらめない」か、どちらかの選択になります。そのことを一番強く感じたのは、100キロウルトラマラソンでした。制限時間14時間以内に走り切れば完走となります。14時間も走れば「あきらめるための言い訳」はいくつも出てきますが、それを一つ一つ打ち消して完走することができたのは、家族の支えがあったからでした。1回目には、息子夫婦が現地に来て沿道ですっと応援してくれました。2回目には、妻がくれたお守りを握りしめ、何とかゴールにたどり着くことができました。走るのは自分ですが、走りきれるかどうかは自分だけの力ではありません。その時私が100キロを走り切れたのは家族の力があってからでした。

これから皆さんは高校生となり、レベルの高いステージに上がります。そこは決して平坦な道ではありませんが、絶対に「あきらめない」でその道を走り続けてください。皆さんが走り続けるために、家族があるいは他の誰かが必ず皆さんに「あきらめないための力」を与えてくれるはずですよ。

最後に、夢に向かって旅立つ皆さんに、私からエールを送りたいと思います。昨年11月の講演会で、講師の立木早絵さんが歌った歌「夢に向かって」の歌詞の一節を送ります。

『どんな時でも 自分の決めた道には とことん食欲でいたい  
夢は見るものじゃなくて 追いかけるもの  
そして 叶えるもの 諦めない  
自分色の輝きを手に この手にするまで』

卒業生の皆さんの今後のご活躍を期待しています。